

## 【エクアドル内政・外交：2018年2月】

### 1. 内政

#### (1) 国境付近における陸軍兵士への発砲事件

19日(月)午後、エクアドル北西部、エスメラルダス県北部のコロンビアとの国境付近において、治安維持活動中のエクアドル陸軍兵士が、発砲され負傷した事件が発生した。

ア 発生日時

2月19日(月)午後

イ 発生場所

エクアドル北西部に位置する、エスメラルダス県エル・パン地区

(1月27日に自動車爆弾テロ事件が発生したサン・ロレンソ市の東方約10Kmに所在する地区で、コロンビアとの国境に位置する。首都キトから、道のり約280Kmの距離)

ウ 被害状況

負傷者2人(陸軍軍曹2人が、それぞれ足に銃創)

エ なお、上記に先立つ2月17日に同陸軍部隊とFARC反主流派組織と思われるゲリラ部隊との間で発砲を伴う交戦があった。

#### (2) 2018年エクアドル国民投票

ア 実施概要

2月4日(日)、07:00~17:00に、国民投票がエクアドル全国で実施された(有権者数:13,026,598人、投票所数:3,492ヶ所、投票テーブル数:35,105)。

米州機構(OAS)、南米諸国連合(UNASUR)等が投票監視を行っており、報道振り等によれば、右国民投票は、平穏裡に行われた。

質問の内容は以下のとおり。

<憲法改正に関わる質問(Referendum)>(以下一連の投票結果は、有効票のみにおけるカウント。)

① 汚職行為により有罪判決を受けた全ての人が附属1のとおり政治活動への参加を禁止され、また、資産没収により罰されるため、憲法を改正することに、あなたは賛成ですか？

② 権力濫用の抑制の原則を確保するため、附属2に従い、モンティクリステイ憲法の精神を回復し、2015年12月3日に国会による憲法修正(当館注:国民投票を経ずに憲法を変更したもの。)で認められた無制限再選を無効とし、選挙で選ばれる全ての当局者が同じ職には一度しか再選されないこととするため、憲法を改正することに、あなたは賛成ですか？

③ 市民参画・社会コントロール審議会（CPCCS）を再編し、現メンバーの任期を終了させ、移行期に同審議会の機能を持つことになる審議会が、附属3に従い、同審議会が任命権を持つ関連当局者の業務を評価し、場合によっては同当局者を罷免させる権限を持つよう、憲法を改正することに、あなたは賛成ですか？

④ 附属4に従い、児童・青少年に対する性的犯罪の時効をなくすため憲法を改正することに、あなたは賛成ですか？

⑤ 附属5に従い、保護地域、不可侵地域、都市部での全ての段階における金属鉱山開発を例外なく禁止するために憲法を改正することに、あなたは賛成ですか？

<憲法改正に関係しない質問（Consulta Popular）>

① 附属1に従い、キャピタル・ゲイン税法として知られる「土地投機防止及び税率設定に関する法律」を廃止することに、あなたは賛成ですか？

② 国会で承認された、ヤス二国立公園の不可侵地域を少なくとも5万ヘクタール拡大して、原油開発可能な地域を1,030ヘクタールから300ヘクタールへ縮小することに、あなたは賛成ですか？

イ 開票率100%の結果

国家選挙審議会（CNE）のホームページ上、2月8日時点で今次国民投票の開票結果が100%となった。各質問に対する賛成・反対の割合は以下のとおり。

<憲法改正に関わる質問（Referendum）>

質問①（汚職対策関係）

（集計表処理率：100%）

賛成：73.71%

反対：26.29%

質問②（公職の三選禁止の関係）

（集計表処理率：100%）

賛成：64.21%

反対：35.79%

質問③（市民参画・社会コントロール審議会（CPCCS）のメンバー及び選出方法の改正）

（集計表処理率：100%）

賛成：63.08%

反対：36.92%

質問④（児童・青少年に対する性犯罪に係る時効廃止）

（集計表処理率：100%）

賛成：73.53%

反対：26.47%

質問⑤（鉱業開発への制限）

（集計表処理率：100%）

賛成：68.62%

反対：31.38%

<憲法改正に関係しない質問（Consulta Popular）>

質問①（キャピタル・ゲイン税法廃止）

（集計表処理率：100%）

賛成：63.1%

反対：36.9%

質問②（ヤスニITTの保護拡大）

（集計表処理率：100%）

賛成：67.32%

反対：32.68%

ウ 結果の官報への掲載

2月14日、2018年エクアドル国民投票の結果（上記イ）が官報に掲載された。関連の報道振りのポイントは以下のとおり。

① 2月4日に実施された国民投票について、国家選挙審議会（CNE）は、同月8日に発表された開票率100%の結果に対して関連法が定める異議申し立て期間中に具体的な法的訴えは行われず、従って同結果は確定的なものとなり、そのため、同結果が掲載され、発効されるべく、官報掲載のため送付された旨発表した。同結果は、14日に、CNEにより、国会を含めた関係組織に通達される。

② 官報に結果が掲載されると、モレノ大統領は、関連の法案（キャピタル・ゲイン税法廃止に関するもの等）を国会に提出でき、同様に、市民参画・社会コントロール審議会（CPCCS）の暫定新メンバー候補者リストを国会に提出できる。

③ 国会運営理事会（CAL）は、14日午後より、関連の法改正等を扱うための特別委員会の設置のための会合を予定している。

### **(3) 国民投票の結果に関する法改正等を扱うための特別委員会の設置**

15日、国民投票の結果に関連する法改正等（主にキャピタル・ゲイン税法廃止及び市民参画・社会コントロール審議会（CPCCS）の関係）を扱うための特別委員会が設置された。与党国家同盟（AP）のダニエル・メンドサ議員が委員長で、メンバーは計10人（AP議員5名、PSC1名、CREO1名、SUMA1名、パチャクティク党1名、ID1名）。

16日、大統領府から、上記キャピタル・ゲイン税法廃止及びCPCCSに関する法案が国会に送られた。

### **(4) 市民参画・社会コントロール審議会（CPCCS）のメンバーの交替**

ア 国民投票の結果を受け、19日、モレノ大統領は、CPCCSの暫定メンバーの候補者（7×3名）を国会に提出。

イ 28日、国会は、同候補者の中からCPCCSの暫定メンバー7名を選出。元国会議員、元軍人、法律家、メディア関係者、大学学長等、多様な分野の人物が選出された。（就任は3月1日から）。

### **(5) セラーノ国会議長の疑惑**

26日、ポリット前会計検査院長とセラーノ国会議長の会話音声が開示された。同音声では、汚職問題で長らく渦中にあるポリット元会計検査院長とセラーノ国会議長とが極めて親しげに会話しており、また両者間でバカ検事総長を辞めさせるべきであると合意している模様であった。現職の国会議長の人間関係及び行政府による司法介入の2つの点で問題視されており、28日、同国会議長の辞任への賛否が国会で問われた（投票結果は、52の議員（コレア派議員及びCREO議員）が賛成、46の議員が反対、29の議員が棄権、10の議員が欠席（モレノ派議員、PSC、SUMA）であった。）。

## **2. 外交**

### **(1) 第6回エクアドル・コロンビア合同閣議**

14日及び15日、第6回エクアドル・コロンビア合同閣議が開催（於：コロンビア、ペレイラ）。エクアドルからは、モレノ大統領、エスピノサ外務大臣、サンブラーノ国防大臣他が参加。両国の軍の麻薬対策のための合同訓練を実施することで合意した他、国境地域の開発協力（13のプロジェクト）を実施することへのコミット等が行われた。

## **(2) エクアドルの第73回国連総会議長国への立候補**

21日、エクアドルは、第73回国連総会議長へのエスピノサ外務大臣の立候補を発表。同日付外務省プレスリリースの概要は以下のとおり。

ア エクアドルは、21日、マリア・フェルナンダ・エスピノサ外務大臣の第73回国連総会議長（2018年9月から任期開始）への立候補を発表。エクアドルは過去45年間総会議長を務めておらず、また、南米の国が同職を最後に務めたのは19年前となる。

イ エスピノサ氏は、多国間関係、平和、安全保障、国防、軍縮、人権、ジェンダー、先住民、文化、遺産、持続的開発、環境、生物多様性、気候変動、協力等の分野における国際的交渉について20年以上の経験を持つ。

ウ 国連総会議長は毎年順番に地域毎に選出され、今回はラテン・アメリカ及びカリブ地域の担当に当たる。エスピノサ氏の立候補は、(各般の情勢の)分析の後、同氏が各種国際的議題を扱うために必要な資質と経験を備えていると考える様々な地域の国や有識者の提案を受けて、提起されたもの。

エ エスピノサ氏は、エクアドルの国連常駐代表となった初の女性である（2008年）。

また、第63回国連総会における「総会の再活性化」に関する作業グループを共同で調整した。加えて、MDGsの達成のための努力を主導し、国連の主要機関、主要な委員会及び下部機関におけるエクアドルの積極的な参加を推進した。

オ エスピノサ氏は、国連代表部及び寿府国際機関代表部の常駐代表を歴任しており、人権理事会における様々な交渉を主導・支援し、国際自然保護連合の国際顧問及びラテン・アメリカ地域理事を務め、COP21における議論を含め、国際場裡におけるCELA Cの活動を主導してきている。

カ 国内政治においては、現在2回目の外相を務めており、その他国防大臣、自然・文化遺産調整大臣を務めている。

## **(3) ベネズエラ情勢への不干渉の再強調**

22日付外務省プレスリリースにて、ベネズエラ情勢への不干渉が再強調された。

## **(4) アサンジ・ウィキリークス代表の亡命問題**

23日付外務省プレスリリースにて、アサンジ氏を巡る英国との交渉が実らなかった旨述べられた。

#### (5) シャノン米国務次官のエクアドル訪問

シャノン米国務次官が3日間エクアドルを訪問し、27日モレノ大統領と会談。スアレス外務大臣代理とも会談を行い、これには複数閣僚が同席した。

報道では、モレノ大統領との会談では、貿易、安全保障、文化交流、教育、移民をふくむ全ての分野で、二国間関係を再度強化することで合意し、また、シャノン米国務次官は、23日のOASのベネズエラの大統領選挙中止を求める決議へのエクアドルの棄権への謝意を表したと報じられた。

一方、外務省プレスリリース(26日付)は、エクアドル人移民の人権保護と「公正な」通商関係について話し合ったと報じた。